

# 大学図書館は学修支援にどう取り組むのか

私立大学図書館協会東地区部会  
研究講演会

2018年6月8日

新潟大学学術情報部 岡部幸祐

# プロフィール

## ○図書館改修工事等

- 平成20年度 筑波大学中央図書館耐震改修工事(第1期)
- 平成21年度 金沢大学中央図書館ラーニング・コモンズ工事
- 平成22年度 金沢大学医学図書館改修計画策定(平成23年度着工)
- 平成25年度 名古屋大学中央図書館耐震改修工事
- 平成26年度 東京大学新図書館建築工事・総合図書館改修工事計画  
～27年度

## ○学習支援関係プロジェクト

- 平成24年6月 学習支援促進のための三大学連携事業(名古屋大学、金沢大学、静岡大学)
- 平成25年3月 「図書館員による図書館員のための」Information Literacy Instruction Librarian育成事業によるe-learningコースの公開(図書館振興財団助成事業)
- 平成27年3月 「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」の策定(国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会)



# 0. アクティブ・ラーニングって？



# アクティブ・ラーニングの体験

- ①受講生として参加したことがある。
- ②アクティブ・ラーニングの手法で講習会等実施したことがある。



まずは、アクティブ・ラーニングを知ることから始まる。



# アクティブ・ラーニングとは？



教員による一方的な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて  
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)用語集より



アクティブ・ラーニングを  
「学生にある物事を行わせ、  
行っている物事について考えさせること。」  
と定義している。

“Active Learning: Creating Excitement in the Classroom”, Bonwell & Eison, 1991  
松下佳代編著『ディープ・アクティブ・ラーニング 大学授業を深化させるために』序章より





「一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」

溝上慎一

松下佳代編著『ディープ・アクティブ・ラーニング 大学授業を深化させるために』第1章より



**アクティブ・ラーニングは方法  
であって目的ではない。**



# 主体的・協働的 な学習態度を醸成する



# 1. どうして大学図書館は学修(学習)支援に取り組むのか？



「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 2010.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)

**「学習支援及び教育活動への直接の関与」  
が求められる。**



「新たな未来を築くための大学教育の質的転換  
に向けて:生涯学び続け,主体的に考える力を  
育成する大学へ(答申)」中央教育審議会.  
2012.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)



「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」



と言われているが・・・。





# これまででも、大学図書館は 学習図書館としての機能を担ってきた



## 2. 学修(学習)支援とは何をすればよ いのか？



(1) 学修支援なのか、学習支援なのか。

学士課程教育の実質化 単位の実質化



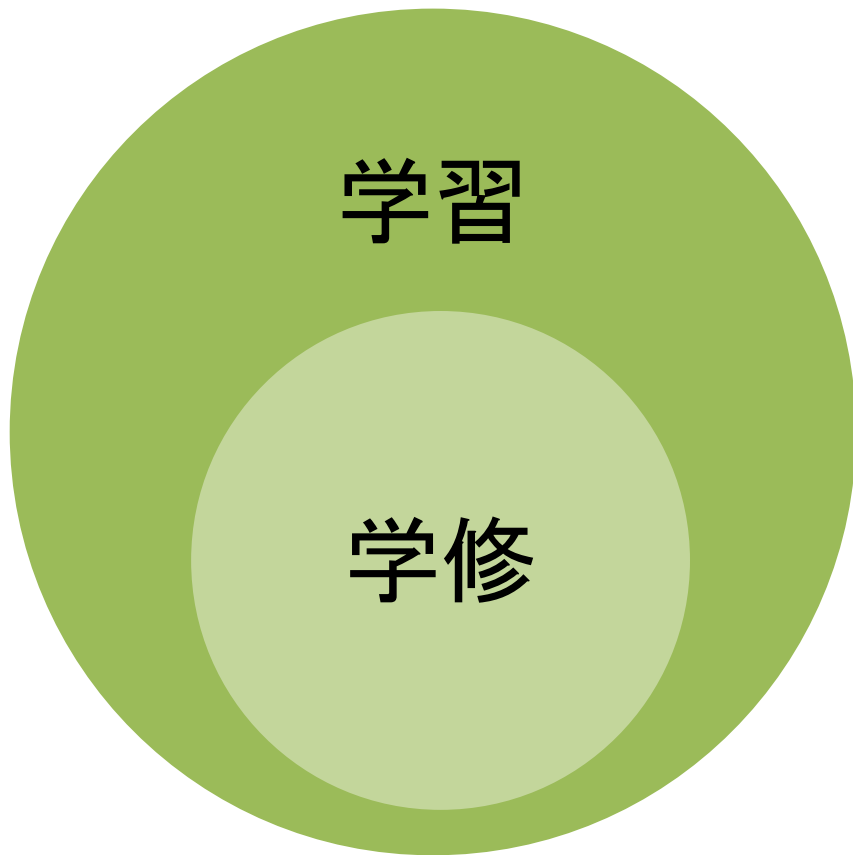
学修支援



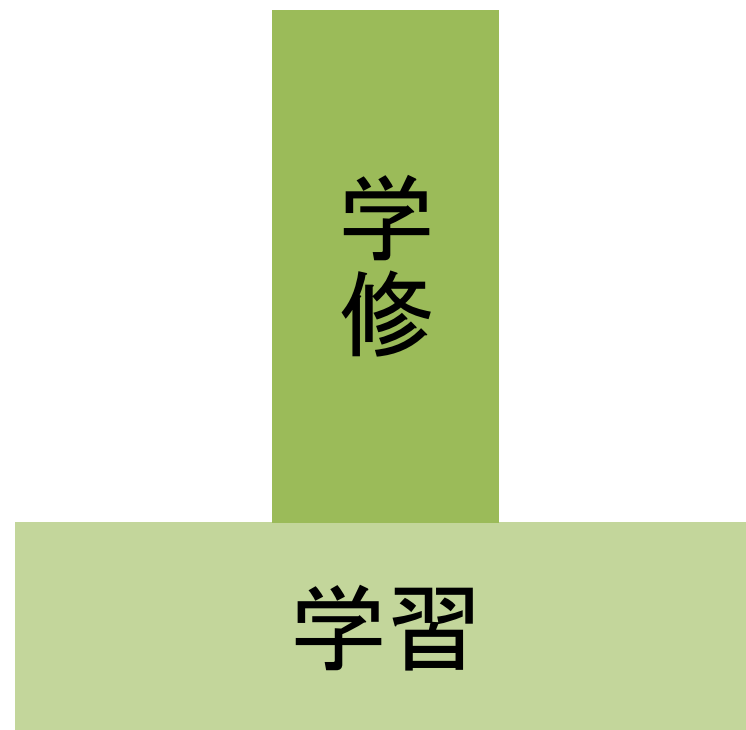
大学設置基準上、大学での学びは「学修」としている。これは、大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した「単位制」により形成されていることによる

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて：生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（答申）」中央教育審議会. 2012.





学修は学習に含まれる



学習は学修を支える



・「我が国の高等教育の将来像」平成17年1月28日中央教育審議会答申

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm)

・「学士課程教育の構築に向けて(答申)」中央教育審議会.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)

・「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 2010.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)

・「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ)中央教育審議会大学分科会大学教育部会, 2012.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm)

・「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて:生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」中央教育審議会. 2012.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)

・「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 2013.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm)

・「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会教育課程企画特別部会.2015.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.h](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)

tm

2018/6/8

2018年度私立大学図書館協会東地区部会研究講演会



22

# ディプロマポリシー カリキュラムポリシー

に基づく支援



### (3) 大学図書館に求められる機能・役割

#### ① 学習支援及び教育活動への直接の関与

##### ア. 学習支援

○ 学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。

##### イ. 教育活動への直接の関与

○ 情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められており、カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべき。また、e-Learningへの貢献が期待される。

「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」【概要】  
(平成22年12月科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会)





学生の学修環境充実に関わる学術情報  
基盤整備の在り方として、「コンテンツ」  
「学習空間」「人的支援」の3要素の有機  
的な連携が重要。

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」2013.8  
科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会



「学習空間」については、多様な学習活動に対応可能な空間を用意するとともに各空間の開放性、透明性を高くすることが重要。「見る」「見られる」という空間の中で、学生の互いの学習意欲を刺激し、さらに、教員の教育姿勢に対しても好影響を与える。

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」2013.8  
科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会



「人的支援」については、ラーニングコミュニティにおいて、大学院生、図書館員や教員による学生の学修を支援する体制構築が不可欠。学生同士が支援し合うピアチュータリングも推進すべき。

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」2013.8  
科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会



効果的なアクティブ・ラーニングを実現するため、大学内で、図書館、情報系センター、教材開発センターなどの関連組織の連携、さらに教育を担当する教員が協力して推進する体制を構築することが重要。

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」2013.8  
科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会



## (2) どのような学生を育成したいのか？ 目指す学生像は？



# 学習指導要領の改訂

2020年(H32)4月 小学校

2021年(H33)4月 中学校

2022年(H34)4月 高等学校入学生から

## 大学入試改革

2020年度 「大学入学希望者学力評価テスト  
(仮称)」

2024年度 新学習指導要領に基づく出題



# アクティブ・ラーニング導入 の本格化



# 生きる力





# 学士力



1. 知識・理解
2. 汎用的技能
3. 態度・指向性
4. 統合的な学習経験と創造的思考力



コミュニケーション・スキル、数量的スキル、  
情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力



# 能動的学修 → 主体的学習者



# ディプロマポリシー カリキュラムポリシー 大学入試改革 学習指導要領の改訂



# 主体的な学び 対話的な学び 深い学び



## 学習への深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探すこと
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

松下佳代編著『ディープ・アクティブ・ラーニング 大学授業を深化させるために』第1章 表1-1より 一部省略



# 「大学での学習は単にアクティブであるだけでなく、 ディープでもあるべきだ」

“Active Learning: Creating Excitement in the Classroom”, Bonwell & Eison, 1991  
松下佳代編著『ディープ・アクティブ・ラーニング 大学授業を深化させるために』序章より



# 大学での学び

- 研究をもとにした教育（フンボルト理念）
- 学習者自らが問題解決を行う
  - 調査能力、情報リテラシーが求められる





# 学修支援として 大学図書館は何をするべきか？



# 図書館は 知識を取り出す装置



**その装置から必要な知識を取り出す支援**



**図書館員**



# 情報リテラシー

情報メディアリテラシー  
リサーチリテラシー  
アカデミックスキルズ  
アカデミックリテラシー



批判的思考をもってコンテンツにアクセスし、  
判断し、行動するノウハウ、スキル



# 情報リテラシー教育を中心に 学習図書館としての機能を高度化する



## 新潟大学の人材育成目標(ディプロマポリシー)

本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成します。

そのため、各教育課程の中で以下の能力を養成します。

- ・課題を発見し、それを解決する能力
- ・課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力
- ・課題に協働的に取り組むためのコミュニケーション能力

これらの共通的な能力とともに、各学部、プログラム等の特徴に基づいた能力を養成します。

### プログラム修了認定(学位授与)の基準

上記の能力を有し、各学部、プログラム等で定める修了要件を満たした者に、学士の学位を授与します。



## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

### 教育課程の共通的な特徴

新潟大学で定めるディプロマ・ポリシーに示す能力を備え、国内外で広く活躍できる人材を育成するために、到達目標達成型プログラム(主専攻プログラム)※1と到達目標創生型プログラム(創生学修課程)※2を整備し、人材育成目標に基づく体系的な教育課程を編成しています。

### 教育課程編成の基本方針

各学部、プログラム等でそれぞれの特徴にあわせて基本方針を定めています。





参考:

※1 創生学部以外のすべての学士課程教育プログラム(平成29年度入学生向けで38プログラム)は、主専攻プログラムとして整備されており、そこでは、「知識・理解」、「当該分野固有の能力」、「汎用的能力」、「態度・姿勢」に関する到達目標を定め、構造化したカリキュラムを提供しています。各授業科目が到達目標のどの能力獲得に必要なかを具体的に示すカリキュラムマップも作成されており、学生は各授業科目を履修する目的が何かを具体的に意識して学修することが出来るようになっていきます。

※2 創生学部の創生学修課程では学生が自らの到達目標を定めて、学修をデザインする教育課程を提供しています。



## 人文学部

### 心理・人間学プログラム修了認定(学位授与)の基準

- 自らのテーマを主体的に設定することができる。
- 設定したテーマについて基本的な知識を体系的に整理し、理解することができる。
- テーマを論じるために適切な資料を集め、分析することができる。
- テーマについて論理的に議論を行い、文章化する思考力をもつことができる。



# (3) 学修支援のメニュー





人的支援(サービス)

場(環境)の整備

コンテンツの整備





学習支援の充実  
ラーニング・コモンズの活性化



情報リテラシー教育の充実  
学生協働の展開

ラーニング・コモ  
ンズの整備

学習用資料の  
整備



# 学修支援のタイミング

## 学修年次ごとの支援

- 初年次教育
- 2年次教育
- 3年次教育
- 4年次教育
- 大学院支援



# 学習図書館として これらの支援を再構成



### 3. ラーニング・コモンズはどう活用できるか？





# 何を持って活用できているとするのか？



# (1) アクティブ・ラーニングスペースは

512／783

65.4%の図書館で設置済

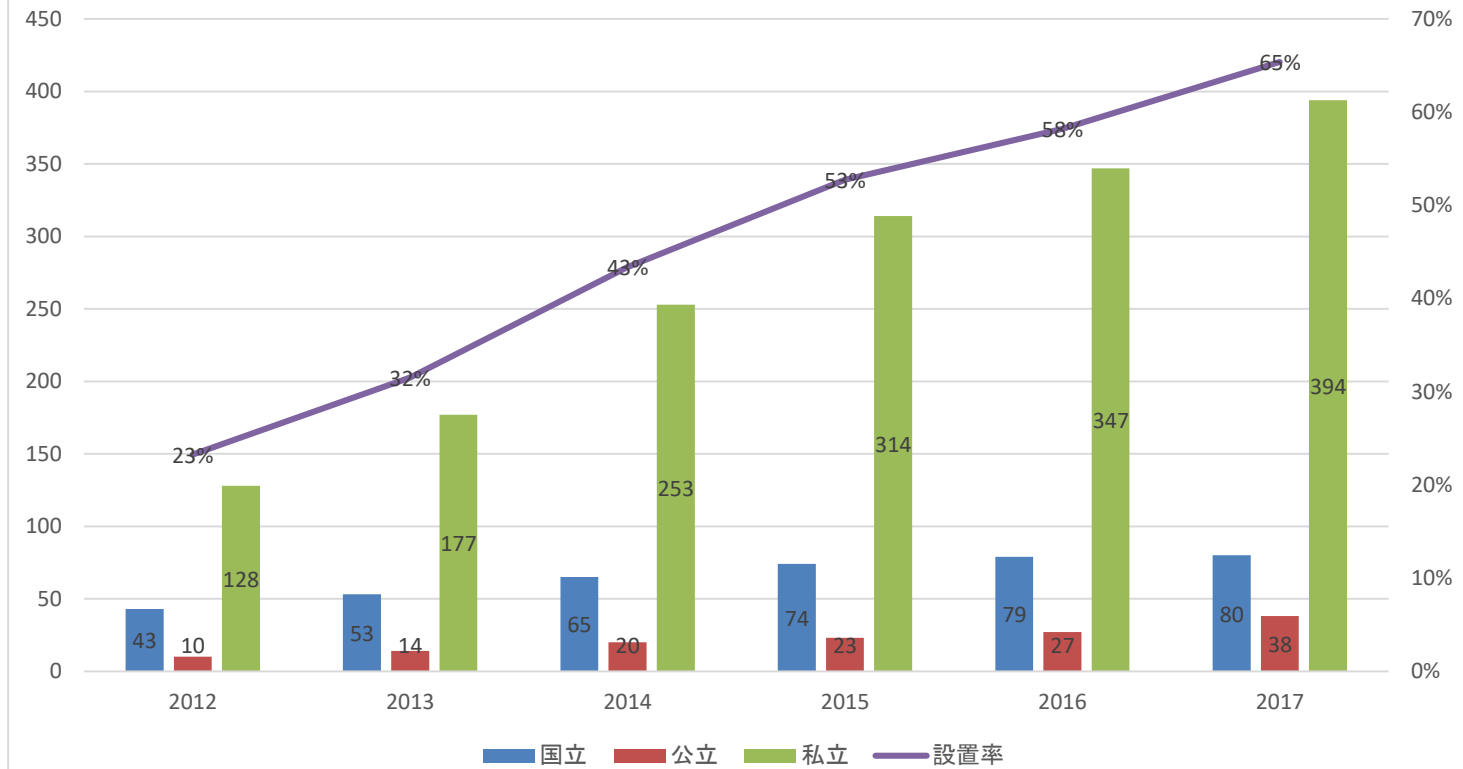


# ○アクティブ・ラーニングスペース (学術情報基盤実態調査から)

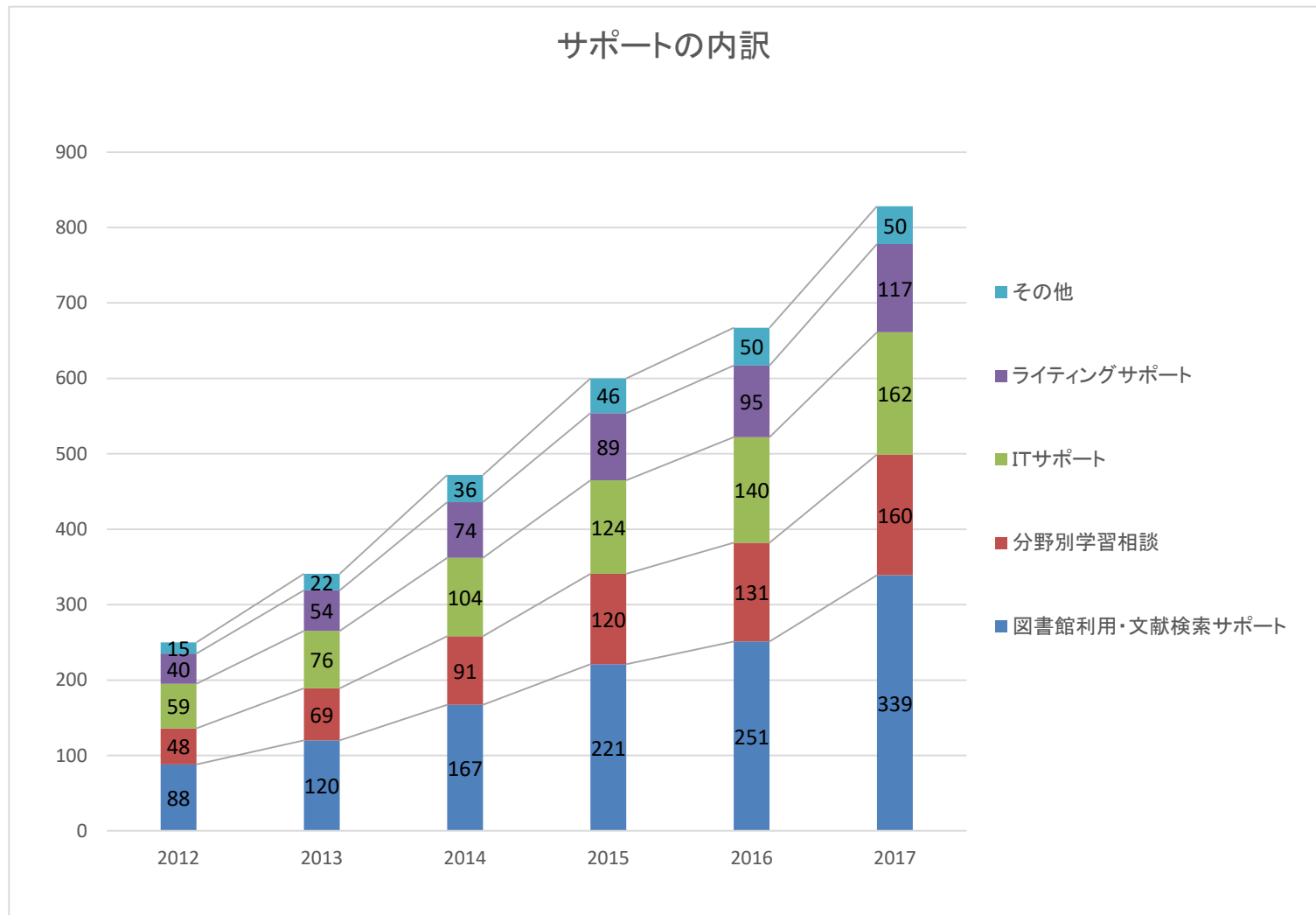
「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペースであり、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する人的サービスも提供しているもの」

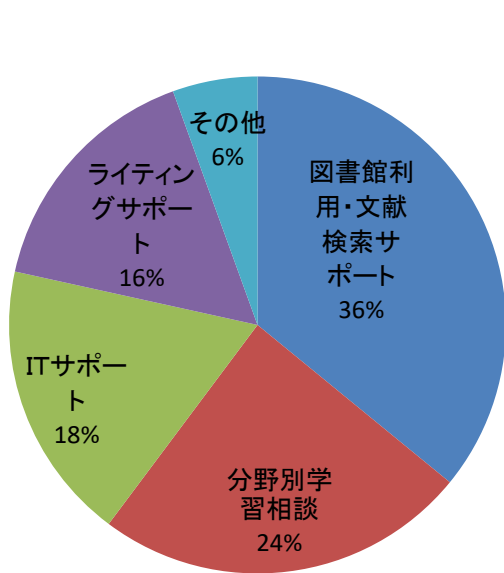


## アクティブラーニングスペースの設置状況

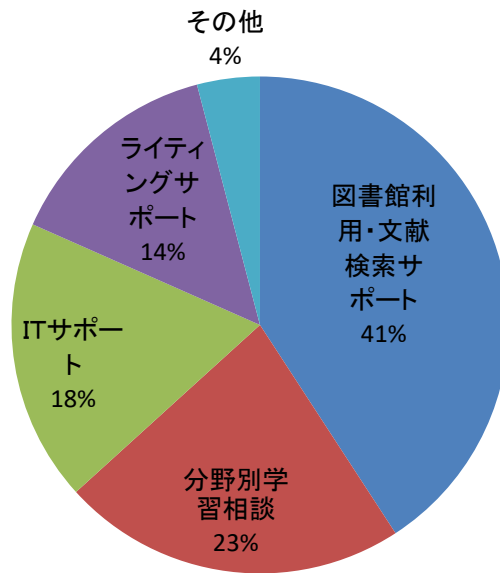


## サポートの内訳

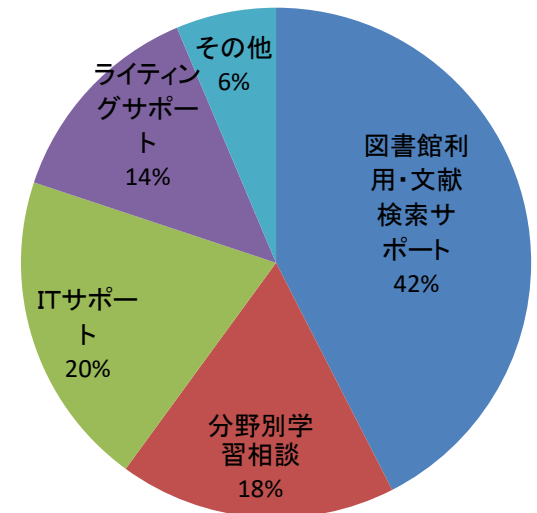




国立



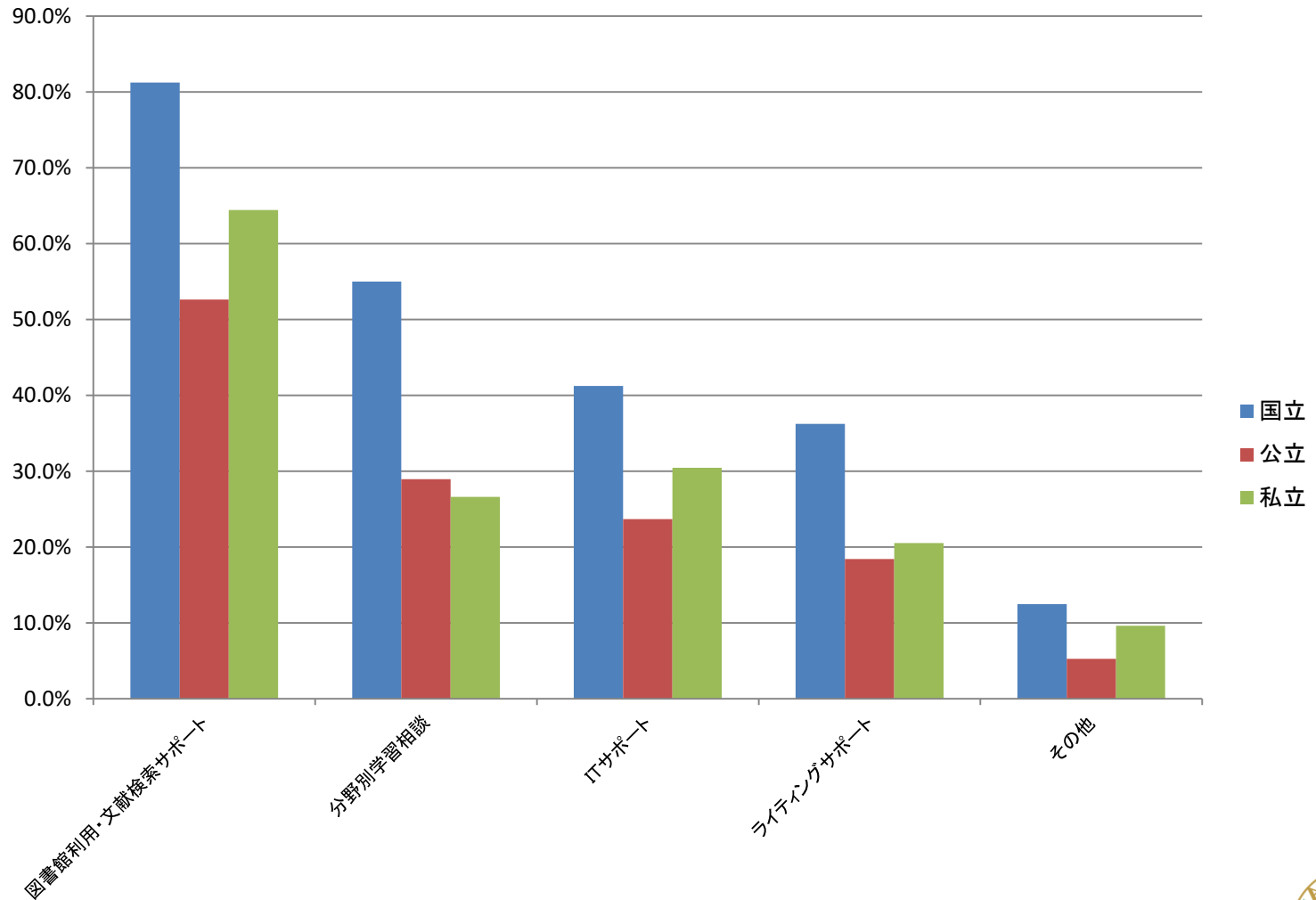
公立



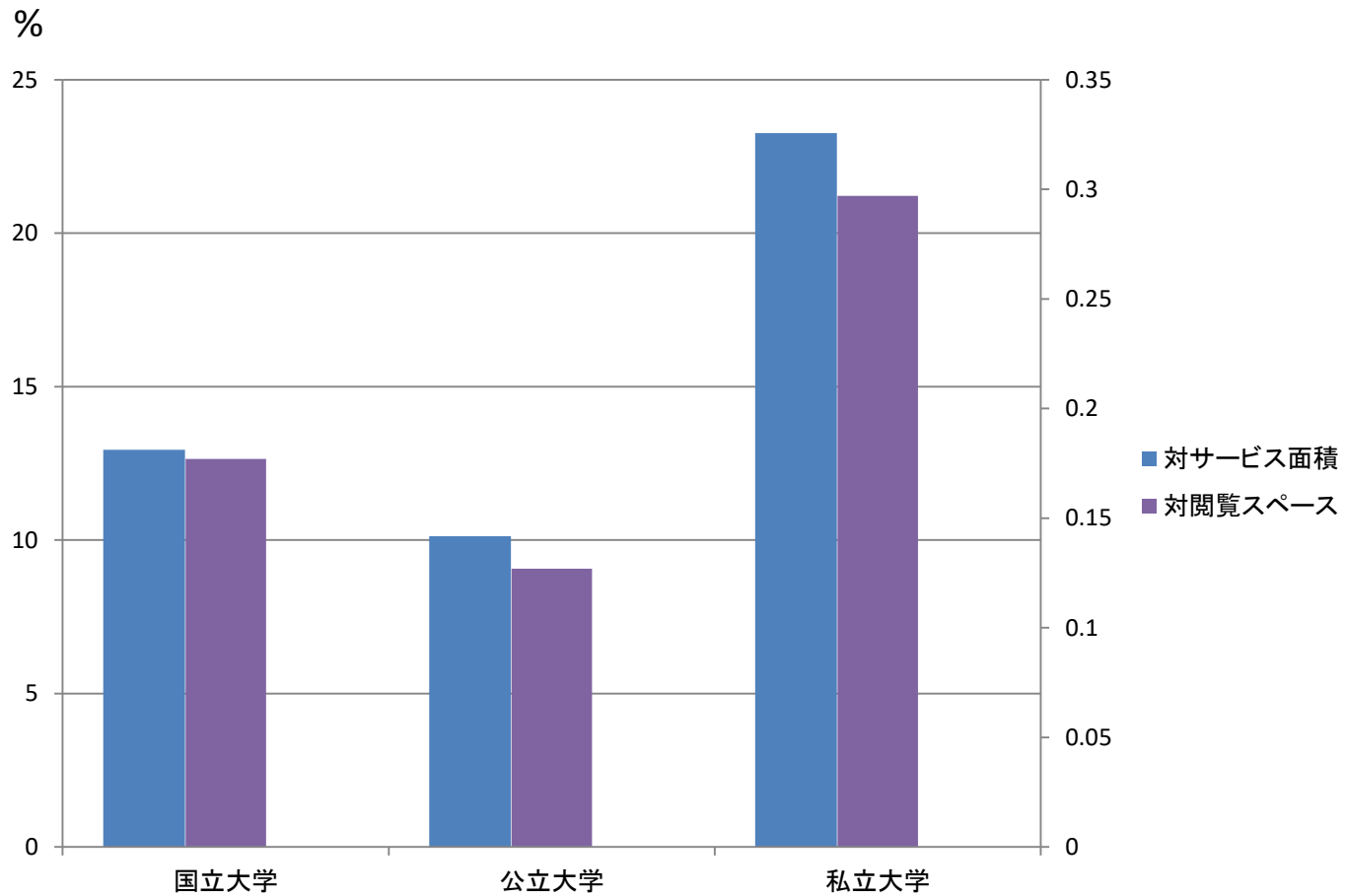
私立



# サービスの実施率



## アクティブ・ラーニングスペースの面積





## (2) ラーニング・コモンズとはどんな場所であるべきか？



どんな場所として  
作りましたか？



# ラーニング・コモンズとは何か

LCとは、学習者中心(Learner-Centered)の新たな教育方法(Pedagogy)の広がりと要請を踏まえて、授業時間以外に学生が行う自学自習や協同学習(授業に関連した学習及び授業に関連しない学習の両方を含む)など様々な学習形態へ適応するために大学図書館等が提供する学習環境(施設, 設備及び情報・コンテンツ)と, この学習環境の活用を通して学生の主体的な学びを促す仕組み(人的支援)の総体を指す。

「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3



# LCの目的

各大学の教育目的を実現するため、経営層や教育担当部署との認識共有及び連携を通じて、学習者中心の教育の不可欠な構成要素となることにより、主体的な学びを理解し、自立した学習活動を行う学生を養成することである。

「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3



# 自立的な学習(主体的な学び)のために 必要な学生のスキル

## (1) 学士力を構成する不可欠の能力

### ① 情報リテラシー

授業外の学習において、自立的に情報ニーズ(課題)を把握し、情報を探索・収集・分析・評価し、新たな知識として総合するまでの一貫した能力。

### ② アカデミックスキル

学生が学士として必要な知識体系を習得するために、特に初年時教育において習得が必須の、情報リテラシーを核とする共通スキル。

「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3



(2) コミュニケーション能力・コミュニティ形成能力  
学習者中心の教育の主要な手法であるアクティ  
ブ・ラーニングの実践に必須のソーシャル・スキ  
ル。

### (3) その他

大学生生活全般において学生の習得が望まれる多  
種多様なソーシャル・スキル。各大学の教育目的  
や学習・生活環境に応じて多様なスキルがあり得  
る。

「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3



# 想定される学習 & 支援

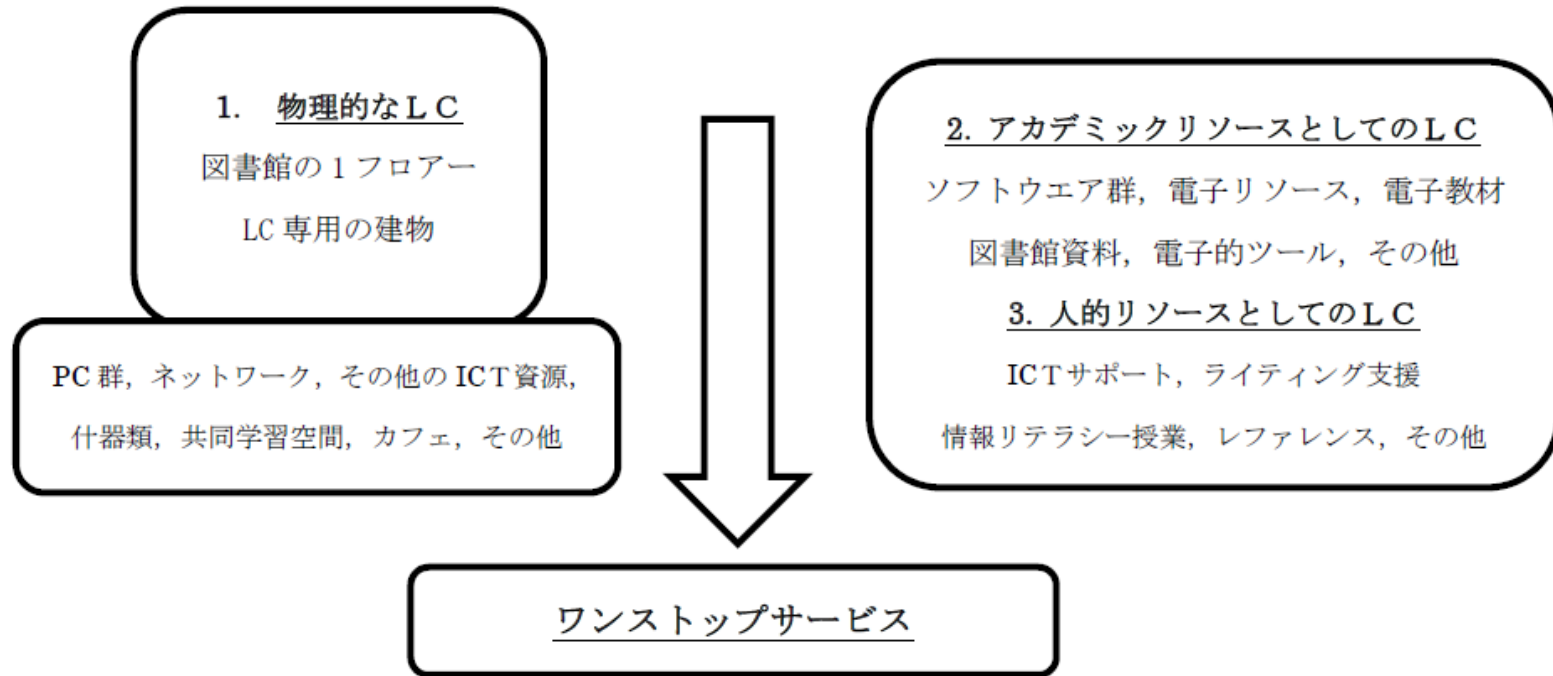
- (1) 情報機器や電子的なリソース, 図書館資料等を利用した自学自習活動
- (2) 協同学習やグループ学習による新たな形式の学び
- (3) 自主的なコミュニティ活動
- (4) 情報リテラシー及びアカデミックスキルの養成(教職員や学生等による支援活動)

「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3



# 構成要素

<LCの3つの構成要素>



「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告」  
国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 2015.3





# 目的を実現するために

- ラーニング・コモンズは成長する有機体
- 場所としての整備は一つの要素であり、スタート点にある必要最低限の条件である。事業としてのLCは場所の整備が終わった所から始まる。
- LC(機能)の拡張と進化が必要



# まずは現状確認から



# チェックリスト

- LCの基本構成(詳細例示)
- LCの進化の方向性
- LC整備セルフチェック



(1) LCの基本構成(詳細例示)

(1) 組織及び運営、点検評価		(2) 物理的リソース(フロアデザイン)		(3) 物理的リソース(電算資源、什器等)		(4) アカデミックリソース(電子資源、コンテンツ)		(5) 人的リソース(学生、教員、職員)	
◎設置目的	LC設置の目的、学生に期待する自立的活動(=教育目的)を明記。	◎共同学習スペース	共同学習、アクティブ・ラーニングを可能にするスペース	◎可動式テーブル 椅子	学習のスタイルに応じてセッティング可能な可動式のテーブルと椅子	◎各種ソフトウェア ◎各種電子ツール	MS オフィスやその他の汎用ソフトウェアなど	◎ICT サポート	PC等の利用支援
◎運営方針	LCの運営方針、学生が可能な活動形態を明記。	◎PC 利用スペース ◎PC 共同利用スペース	PCを使って作業をする、あるいはPCを使って議論しながら作業するスペース	◎ホワイトボード ◎電子ボード	共同学習において、利用可能なボード	◎電子リソース(電子ジャーナル、電子ブック、DB等) ◎バスマイスター	図書館が提供する電子的資料	◎レファレンス *バーチャルレファレンス	図書館による参考業務メール等を使った遠隔参考業務
◎設置組織	LCの設置主体、複数もあり。	◎グループ学習スペース	ゼミなど特定の目的を持ったグループが閉じて共同学習出来るスペース	*ソファ	リラックス可能なソファ	◎各種マニュアル類	PC やソフトウェア、その他の電子資源を利用するためのマニュアル	◎情報リテラシー ◎各種ガイダンス	図書館による情報リテラシー授業や多様な資料等利用ガイダンス等
○連携組織	LCによる学生支援の連携組織、複数可能。	◎人的サポートスペース	LCの利用者に対する人的サポートのスペースないしはポイントあるいはデスク	◎電源及びネットワーク(有線、無線)	PC等の電子的機器に対応するインフラ	◎各種支援資料(アカデミックスキル関係)	論文(レポート)の書き方や引用の仕方などアカデミックスキルの解説書など	◎アカデミックリテラシー(ライティング支援、論文執筆支援等)	図書館その他の組織、TA等によるアカデミックリテラシー支援
◎運用組織(スタッフ)	LC及び学生支援を担うスタッフ組織。	◎プレゼンテーションスペース	プレゼンテーションを投影して学習したり、プレゼンテーションの練習等を行うスペース、情報リテラシー授業も行える。	PC等は◎(下記から選択) ◎PC(購入付) ◎PC(貸出) ◎iPad等	PC やタブレット等の機器 自学自習、リテラシー教育等を可能にする	*各種支援資料(留学、留学生、就職、進学)	留学希望者や留学生、就職や進学に役に立つ情報	*就職支援 *進学支援 *キャリア支援	就職、進学等に関する人的支援やイベント等
◎利用者のフィードバック	設置時及びPOCAサイクルのための利用者のニーズ把握。	◎イベントスペース ◎展示スペース	学協会や発表会、ポスターセッション、サイエンスカフェ、サークルの発表会や成果の展示会など自主的なイベントを行うスペース	*ワークステーション	高度な作業を可能にする ハイエンドワークステーション等	◎ディスクカバリーサービス、OPAC、リゾルバ	図書館が提供する電子的ポータル	*生活相談	学生生活に関する人的支援
○評価と見直しサイクル	利用者の評価を踏まえた見直しの方針を明示。	◎リラックススペース	授業外の自学自習による長期滞在を可能にするくつろぎのスペース	◎プリンター ◎複写機	作成した電子的素材を出力するプリンター	*電子教材(LMS)	インターネット等を通じて提供されるLMS や電子教材	*グローバル化支援 *留学生支援 *留学支援・語学支援	留学生や留学希望者に対する人的支援
○将来像(変化と拡大)	学習者中心の教育の一環となるための深化と拡大に対するフレキシビリティ(方針)の明示。	◎カフェ(飲食)スペース	現上の目的を可能にするカフェないしは飲食が可能なスペース	◎プレゼンテーション設備(プロジェクター、専用PC等)	プレゼンテーションスペースや共同学習スペースにおいて、電子的素材を投影するための設備、情報リテラシー授業にも活用可能。	*学生向けポータルサービス(学習システム)	学生の履修登録やレポート提出、授業関連の情報を提供するポータルサービス	*各種自主活動支援	学生の自主的活動の誘致
◎整備の概要	全体概要の記述	◎サインシステム	LCのフロアデザインの意図等を明示する	*テレビ会議システム *遠隔放送設備(ustreamなど)	遠隔会議関連設備及びイベント等を選択するための設備				
◎LC整備のセルフチェック	LCの実現度のセルフチェック(LC全体の構成中の実現度)		拡 強		拡 強		拡 強		拡 強

\*このリストは現状でLCに必要なと考えられる要素を網羅したもので、最低基準や標準を示すものではない。LCは固定したものではなく、組織目的や時代環境、利用者ニーズなどに応じて自由に変更ができるものである。  
\*ただし、LCの本質から、構成要素は、◎(必須)、○(望ましい)、\*(LCの設置目的による)の3つに分類した。

	LC深化・進化・拡大の方向	A.運営上の指標(例)	B.物理的指標(例)	C.リソース上の指標(例)	D.人的指標(例)	E. A-Dによって起こるであろう利用者の学修(例)	解説
33	1 ファーストステップ  図書館単独の整備	図書館によるLCポリシー策定  組織及び運営に関する事項整備	協同学習・グループ学習に必要なスペース整備  協同学習・グループ学習に必要な可動式の什器類の整備	(既存の図書館資料等)	従来型の図書館スタッフによるレファレンス及びガイダンス	複数の利用者による議論をベースにしたアクティブラーニング	<b>新たな教育ニーズへの図書館の対応</b>  図書館に協同学習スペース等を付加し、LCの運用方針を立てる 静粛空間ではない利用環境の整備
	2 セカンドステップ  単独の整備の深化	サービス多様化に応じた利用規則等の改訂  PC利用規程整備  学生・院生雇用規則の改定(制定)  組織及び運営に関する事項改訂	PC等情報機器の導入・設置(図書館主体)  リラクスペース及び飲食スペースの設置  プレゼンテーションスペース及び関連機器の導入・設置	図書館ポータルシステム  各種電子リソース  プレゼンテーション用ソフト	LC内で情報リテラシー教育 TAやSAによる学習支援及びPCサポート 学生の多様なニーズに対応する支援やイベントの開催等	PCによる情報収集・情報加工  PCを使った協同学習活動  授業のためのプレゼンテーション作成・実演  潜在型の長時間学習	<b>共同学習空間以外の多様なニーズへの対応</b>  情報利用環境の整備 情報リテラシー及びアクティブラーニングへの人的支援の拡大  学生の自主的活動の推進  長時間潜在可能な環境の整備
	3 サードステップ  他組織との連携	他組織との実質的な連携 PC利用に関する連携協定 成文化されない任意の連携  組織及び運営に関する事項改訂	PC等設置(基盤センター連携)	学習ソフトウェア 統一認証システム  アカデミックスキル図書  PCマニュアル	PCサポート(基盤センター) アカデミック・リテラシー等の多様な人的支援	E-Learning教材の利用  PCを使った協同学習活動  PCによる情報収集・加工  人的支援を活用する学習活動	<b>他組織との連携による教育目的の推進</b>  全学PCの配置と連携を基礎にした人的サポート 初年時教育担当組織・教員等との連携 アカデミックスキル養成(ライティングセミナー等)のイベント等開催
	4 LCの最終的なゴール  教育の一環となる	教育(授業等)に不可欠な制度、システムやコンテンツの導入  教育関連組織や教育関連委員会との連携協定等 組織及び運営に関する事項改訂		学生ポータルシステム  電子教材作成システム  LMSの導入 電子教材の利用	ライティング支援(大学教育センター等)  課題解決型授業連携	授業の準備のための資料・電子教材利用  ポータルを利用したレポートの提出や課題作成  授業の課題を行うための協同学習活動	<b>学内組織との連携の制度化</b>  ライティングセンター(アカデミックスキル)を関連組織と連携して設置 学務部や授業担当教員との連携による授業補完体制整備

- \* 1~4の各段階は進化の方向性を表現する。
- \* 各指標の記述は例示であり、実際には各大学で個別な記載を行う。
- \* 解説の黒字は各段階に対する考え方を解説したものである。この解説についても、各大学で個別な記載(カスタマイズ)が可能である。
- \* 最終的なゴールについても現状での定義であり、この表全体を含めて、時代環境に合わせて適宜見直しが必要である。



	組織及び運営に関する事項	(記入例)	記入
1	設置目的	(1)初年時学生の情報リテラシー能力養成の機会及び電子的学習環境を提供すること。 (2)学部学生のアクティブラーニング(新しい学びの方法)を支援・誘発すること。	
2	運営方針	(1)対顔、プレゼンテーション、共同学習などの小グループでの自学自修を可能とする (2)ICT による電子的環境の利用と利用スキルの養成・自学自修を可能とする (3)電子的リソースを使った調査、授業用の資料作成を可能とする (4)上記3つを援助する人的サポートの利用を可能とする (5)ペットボトルによる飲料持ち込みを可能とする	
3	設置組織	附属図書館 設置責任者 附属図書館長	
4	運営組織	附属図書館 プロジェクト責任者 情報サービス課長	
5	連携組織	情報基盤センター	
6	運営組織(スタッフ)	附属図書館情報サービス課情報サービス係・レファレンス係 附属図書館雇用TA(大学院生) 情報基盤センター学生利用係 情報基盤センター派遣スタッフ(大学院生)	
7	利用者のフィードバック	(1)設置時にアンケートによるニーズ調査 (2)設置後、1年間隔で、インタビュー及びアンケートによる定点調査	
8	評価と見直し	3年間のフィードバックを踏まえて評価を行い、評価に基づき見直し *初年時のユーザフィードバック-飲食範囲の拡大とスペースの設置への要望が多い *大きな変更でない場合、1年単位で見直すべきとの意見があり	
9	将来像	設置当初は、全学PC設置によるインターネット等利用環境の整備と共同学習等への対応を第一義として、図書館が主体で基盤センターと連携した。親機関(大学)がスーパーグローバルA(文部科学省)実施校に指定されたため、特に留学(生)サービスの強化と多言語環境(人的支援、アカデミックリソース)を整備していく中期的な展望を描いている。	
10	整備の概要	附属図書館内の参考図書・雑誌コーナー(静読エリアを廃止)を模倣替えて、LOを設置。LOには可動式テーブル、チェア、ホワイトボード、プレゼンテーション設備、全学PC(30台)を導入。会話及びペットボトル持ち込みを可能とする方針採用。全学PC及び学修支援(レファレンスを含むアカデミックスキル全般をカバー)のために、大学院生を雇用。設置については、図書館委員会による承認を得た。TA雇用については、財務担当理事・情報基盤センター長からの理解を得た。	
11	LO 整備のセルフチェック	現状では、フェーズの1、2、3の基本的な整備を行ったと自己評価。自己評価及び将来像に基づき、さらに大学全体の教育目的への貢献度を高めるべきであり、フェーズ2、3に該当する活動を多様化する予定。 4に関しては学生部や教員との連携の難しさが、理想のゴールとして認識は持ち続けたい。	



# ラーニング・コモンズは 自習の場

単位の実質化の文脈

1単位 45時間 1時間の授業時間に対して2時間の自習が必要



**ラーニング・コモンズの問題点は、  
教員も学生も(図書館員も)  
アクティブ・ラーニングを  
学んで(実践して)こなかったこと**





# 誰も使い方を知らない設備を作ってしまったこと



# LCの悲劇



# 学習指導要領の改訂で 状況は変わってくるはず



# (3) ラーニング・コモنزの事例



# 電気通信大学附属図書館 Ambient Intelligence Agora

<https://aia.lib.uec.ac.jp/>

Agoraとは

IoTとAIが融合した新しい創造の場、始動！

「アンビエント情報環境」を取り入れた新しいアクティブ・ラーニング空間で、利用者は液晶ディスプレイやテーブルにも投影できる液晶プロジェクターを使って、大人数のセミナーから数名でのブレインストーミング、また個人での勉強など、様々な場面で活用することができます。

AIA の空間内には、インタラクション用のロボットに加え、温度・湿度・照度・CO<sub>2</sub> 濃度の測定やCCD カメラ、指向性マイクといったセンシングデバイスが大量に設置されています。これらは個人情報への十分な配慮の下、AIA でのアクティビティをデータ化し、「アンビエント情報環境」を取り入れた空間がイノベーションの創出や業務効率の向上にどれほど寄与しているのかを解明するために設置されています。AIAはこうしたイノベーション創出過程の「見える化」を後押しするデザインとなっています。



## 大阪大学附属図書館ラーニング・サポートデスク

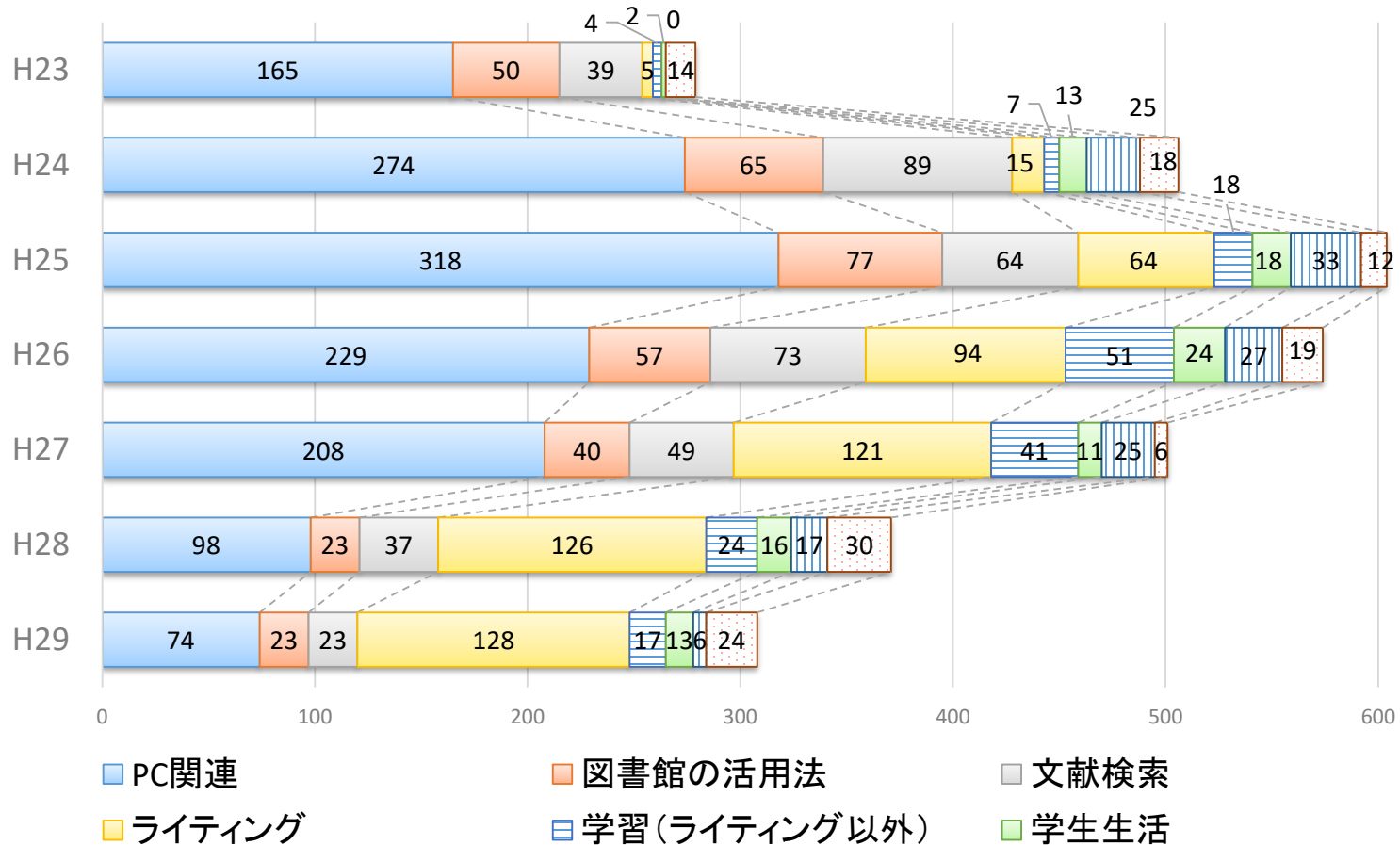
- ・外国語学習支援(グローバルコモンズ)
- ・留学相談

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/ta/>

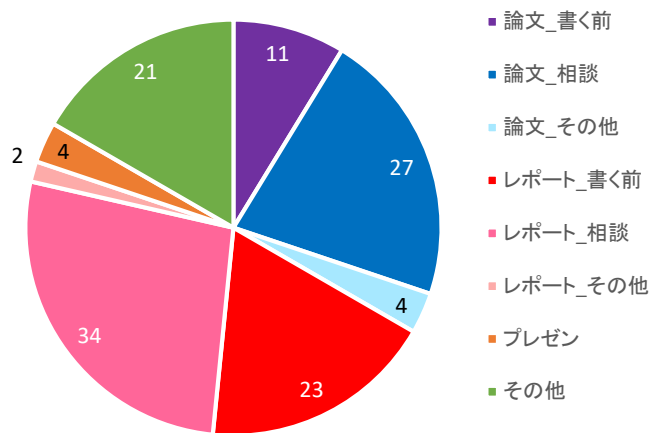


# 筑波大学の事例

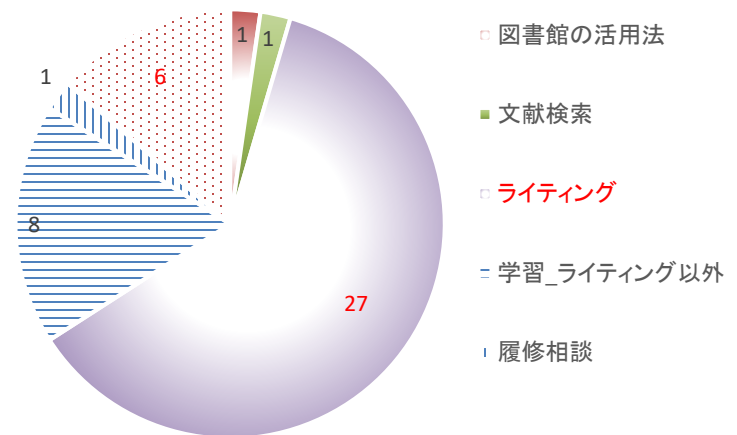
●学生サポートデスク相談内容別件数の推移  
(H23年度-29年度前期)



●ライティング相談:内容内訳(H28年度)



●予約時の相談内容内訳(H28年度)





# 学生のアシストが重要



学生サポーターの育成が難しい

図書館員の役割は？



# 総合的なワンストップサービスの場と するべきか？





山内祐平編著；林一雅 [ほか] 執筆  
ポイックス, 2010.5



溝上 智恵子 編著  
永田 治樹・植松 貞夫・宇陀 則彦・  
三森 弘・呑海 沙織・井上 拓・孫  
誌銜・冷静・歳森 敦・逸村 裕・金  
子 芙弥 著  
樹村房, 2015.3



# (4) ラーニング・コモンズの評価



- 「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言  
実践事例普遍化小委員会報告」

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503a.pdf>

- 「Learning Space Rating System 学習スペース  
の評価システム日本語版」



# Learning Space Rating System

- 「Learning Space Rating System (LSRS)は、学習スペースの潜在的なパフォーマンスを測定する枠組みを提供するものです。」(Version2へのイントロダクションより)
  - 全体はパートAとパートBの2つに分かれ、パートAは、セクション1～3で、プランニングや運用プロセス等、学習スペースの評価ツールとなるもので、パートBは、セクション4～6において、環境、家具、レイアウト、テクノロジーといった物理的スペースの評価ツールとなっている。
- 開発チームと著者
  - Malcolm Brown (EDUCAUSEラーニングイニシアチブ)、Joseph Cevetelo (サンタモニカ市)、Shirley Dugdale (ダグデール・ストラテジー)、Adam Finkelstein (マギル大学)、Richard Holeyton (テキサス大学オースティン校)、Philip Long (テキサス大学オースティン校)、Carole Meyers (ダートマス大学)
- 日本語版
  - 翻訳・翻案: 浦田 悠 (大阪大学)、John Augeri (パリイルドフランスデジタル大学/京都大学)

<https://www.educause.edu/eli/initiatives/learning-space-rating-system>



説明

- 1 評価システムのドキュメントを確認し、評価する基準と収集すべきエビデンスのタイプを特定してください。□
- 2 評価したいスペースを選択してください。□
- 3 このブレッドシートのファイルのコピーを、評価するスペースごとに作成します。ファイルの命名規則を用いて各スペースに1つのコピーを作成してください。:組織名\_棟名\_教室番号\_MMDDYY□
- 4 各学習スペースを視察し、評価基準にしたがって判定してください。得点を、「評価得点」の欄に記入します。エビデンスのセルには、その得点を付けたことが妥当であることを示すエビデンスを記述してください。□
- 5 6つのセクションのそれぞれの学習スペースの合計得点は、LSRS Score Summary (2つ目のシート) で確認することができます。そこで、各セクションの重み付けに従って得られた評価点が算出されています。□
- 6 このExcelの3つめのシートに、以下の写真へのリンクとして、同様の命名規則を用いたファイル名のスペースの写真の貼り付けてください。□
- 7 ノートのフィールドを使用して、基準のエビデンスの情報 (URLなど) を一覧表示することを検討してください。□

部署の情報

組織:	<組織名を記入>
棟:	<棟の名称等を記入>
部屋番号:	<部屋番号を記入>
写真へのリンク:	<写真へのリンクを記入>

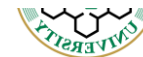
セクショ ン	基準 名	最高得点	評価得点	基準のエビデンスの記述
<b>パートA</b>				
<b>セクション1 キャンパスの文脈との統合</b>				
ICC	1.1 キャンパスのアカデミックな戦略との整合性	1		
ICC	1.2 学習スペースのマスタープラン	1		
ICC	1.3 IT基盤とプランの親和性	1		
ICC	1.4 エビデンスに基づいた研究と評価へのコミットメント	1		
ICC	1.5 学習スペースのためのキャンパスにおけるリーダーシップ	1		
		5	0	
<b>セクション2 プランニングとデザインのプロセス</b>				
PDP	2.1 ステークホルダーの関与	2		
PDP	2.2 エビデンスに基づいたプランニングとデザイン	1 or 2		
PDP	2.3 パイロットとプロトタイプ	1 or 2		
PDP	2.4 評価プラン	1		
PDP	2.5 知見の普及	1		
		8	0	
<b>セクション3 サポートと運用</b>				
SO	3.1 サポート	1		
SO	3.2 スペースについてのオリエンテーションとトレーニング	1		

セクショ ン	基準 名	最高得点	評価得点	基準のエビデンスの記述
SO	3.3 サポートチームのトレーニング	1		
SO	3.4 教員/インストラクターのディベロップメント	1		
SO	3.5 運用にかかる経費の持続可能性	1		
SO	3.6 スケジューリングシステム	1		
SO	3.7 使用法の多様なパターン	1		
		7	0	

セクショ ン	基準 名	最高得点	評価得点	基準のエビデンスの記述
<b>Part B</b>				
<b>セクション4 環境の質</b>				
EQ	4.1 日光	1		
EQ	4.2 外が見えること	1		
EQ	4.3 視認性	1		
EQ	4.4 照明のコントロール	1 or 2		
EQ	4.5 温度のコントロール	1		
EQ	4.6 音響の質	1		
EQ	4.7 環境・文化的包括性	1		
EQ	4.8 アクセシビリティとユニバーサルデザイン	1		
		9	0	

セクショ ン	基準 名	最高得点	評価得点	基準のエビデンスの記述
<b>セクション5 レイアウトと家具</b>				
LF	5.1 スペースの近接性	1		
LF	5.2 スペース内の移動	1		
LF	5.3 座席の密集度	1 or 2		
LF	5.4 家具の配置の柔軟性	1, 2 or 3		
LF	5.5 作業スペース	1		
LF	5.6 座席の快適性	1		
LF	5.7 可動式のパーティション	1		
LF	5.8 透明性	1		
LF	5.9 隣接するインフォーマルな学習スペースへのアクセス	1		
LF	5.10 筆記面	1		
LF	5.11 収納スペース	1		
LF	5.12 耐久性	1		
		15	0	

セクショ ン	基準 名	最高得点	評価得点	基準のエビデンスの記述
<b>セクション6 テクノロジーとツール</b>				
TT	6.1 電源	1		
TT	6.2 ネットワークの接続	1		
TT	6.3 ディスプレイ	1, 2 or 3		
TT	6.4 アンブ	1 or 2		
TT	6.5 AV機器のインターフェースとコントロール	1		
TT	6.6 相互性の確保	1		
TT	6.7 セッションの収録とアクセス	1		
		10	0	





# パートA

## キャンパスの文脈，プランニング，サポートの配慮 セクション1 | ICC | キャンパスの文脈との統合

### 1. キャンパスのアカデミックな戦略との整合性

教育機関の認証評価や外部評価のための活動を含む戦略的なアカデミックな計画やイニシアチブに学習スペースを位置づける。

### 2. 学習スペースのマスタープラン

機関の戦略的な方向性に沿って学習スペースがデザインされている。

Learning Space Rating System (LSRS) 日本語版より



### 3. IT基盤とプランの親和性

学習スペースの計画，開発，運用が，教育機関のIT基盤のサポートによって確実に行われるようにする。

### 4. エビデンスに基づいた研究の評価へのコミットメント

学習スペースの発展を示し，エビデンスに基づいたデザインを進めるといふ大学のカルチャーに貢献するように，定期的かつ反復的な研究と評価のプロセスを開発し，実施する。

### 5. 学習スペースのためのキャンパスにおけるリーダーシップ

リーダーシップを発揮すること，すなわち創造的で革新的なプロジェクトを通じて，学習スペースを大学またはITの戦略と統合する。

Learning Space Rating System (LSRS) 日本語版より



## セクション2 | PDP | プランニングとデザインのプロセス

### 1. ステークホルダーの関与

学習スペースの計画プロセスに、全てのステークホルダーと戦略的なパートナーを関与させる。

### 2. エビデンスに基づいたプランニングとデザイン

学習スペースの戦略とデザインについて調査および／または記述された成功事例のプランニングやデザインを基準として用いる。



### 3. パイロットとプロトタイプ

スペース, 部屋, または建物を指定し, 学習スペースのデザインで考慮すべきアイデアを見出すためのプロトタイプ空間として利用する。

### 4. 評価プラン

学習スペースの性能が実際に実現されているかを判断する。

### 5. 知見の普及

学習スペースについての研究, プランニング, パイロットおよび評価などから得た知見・知識を共有する。



## セクション 3 | SO | サポートと運用

### 1. サポート

継続的かつタイムリーな物理的および／またはオンラインのサポートを提供する。

### 2. スペースについてのオリエンテーションとトレーニング

学習者，インストラクター，およびスタッフが，学習スペースの詳細についてオリエンテーションとトレーニングを利用できるようにする。

### 3. サポートチームのトレーニング

学習スペースのサポートチームが，学習スペースでよく生じる問題を，迅速かつ積極的にトラブルシューティング，解決，対処できるようにする。



#### 4. 教員/インストラクターのディベロップメント

教員およびインストラクターの継続的な学習と開発を可能にし、学習スペースの新しいテクノロジー、ツール、および機能の使用を可能にする。

#### 5. 運用にかかる経費の持続可能性

学習スペースが意図どおりに機能し、時間の経過とともに維持、サポート、改善されるようにリソースを管理する。

#### 6. スケジューリングシステム

教育や学習のニーズに合った学習スペースでのスケジュール設定を可能にする部屋のスケジューリングシステムをユーザーに提供する。

#### 7. 使用法の多様なパターン

通常の授業時間外の学習を可能にすることにより、可能な限り高い投資収益率(ROI)を実現する学習スペースを運営し、サポートする。

Learning Space Rating System (LSRS) 日本語版より



# 4. 情報リテラシー教育で 学びを支援する



リテラシーとは読むことによって  
考える習慣が身につく、  
それによって自分の考えをつくること

根本彰著『情報リテラシーのための図書館－日本の教育制度と図書館の改革』





# (1) 大学における情報リテラシー教育 についての現状認識

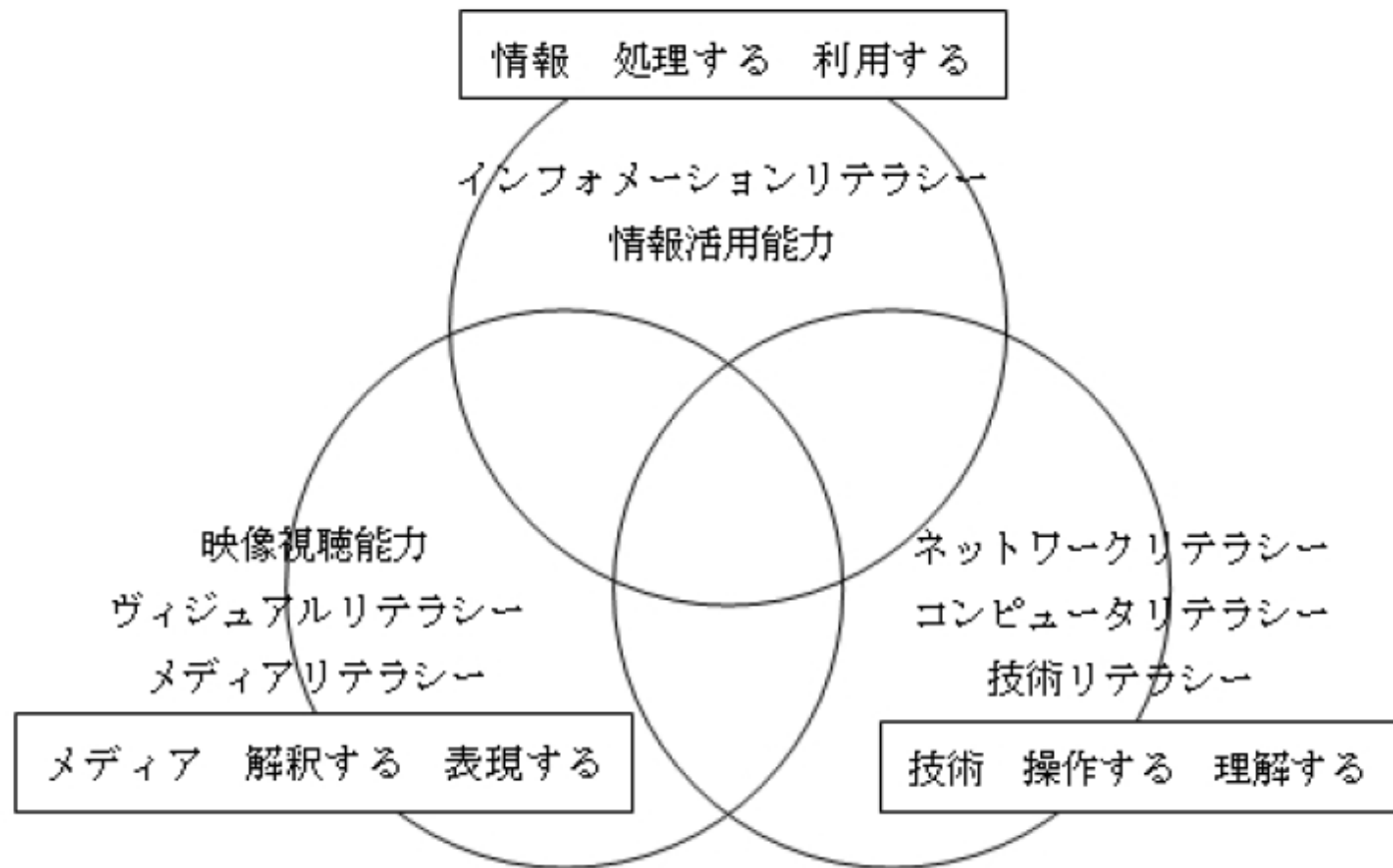


# 情報リテラシー教育とはICTリテラシーなのか？



- コンピュータの基礎
- 情報の形態
- インターネットのしくみ
- Webサイト
- 文書作成、表計算、プレゼンテーションソフト
- セキュリティ、法令遵守



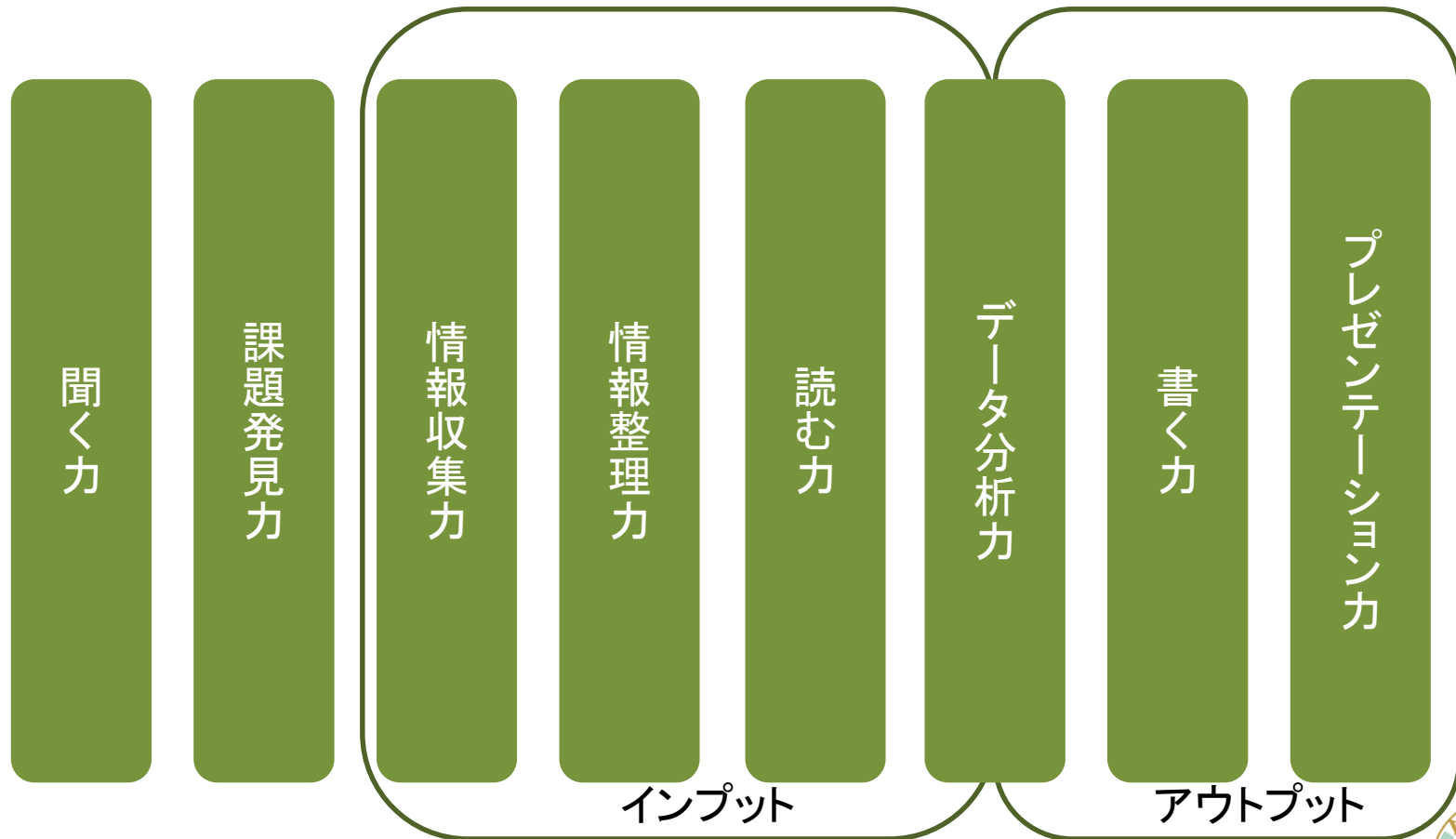


## 情報・メディア・技術のリテラシーの相関図

山内祐平. デジタル社会のリテラシー:「学びのコミュニティ」をデザインする. 岩波書店, 2003.



# リサーチリテラシー



山田剛史, 林創著 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』, ミネルバ書房, 2011



## (2) 図書館における情報リテラシー教育



図書館はこれまでも講習会をやってきているが...



# 図書館の学習支援機能が 明確になっていない





# 教員と図書館員の チームティーチングが進まない



# 新潟大学では

## 附属図書館、教育・学生支援機構連絡協議会

- ・学習支援活動(大学学習法授業協力、授業における情報検索ガイダンス、図書館学習サポーターの雇用等)
- ・FD・SDの開催
- ・アクティブ・ラーニング関連図書購入について報告



# 学校図書館でのこれまでの取り組みが 参考になるのでは？



# (3)ライティングと批判的思考



# 情報リテラシー教育はどこまでやるのか？ 図書館員はどこまでやるのか？



図書館はライティング指導に係わるべきか？

図書館員は教育に関与できるのか？



# 情報リテラシー教育で主体的な学習者を育てる



# 図書館員と教員が協働して行う

## 図書館員が必ずコミットする





# 大学図書館が、 情報リテラシー教育の中心となる場



# ラーニング・コモンズは どうして図書館にあるべきなのか？



# (4) 高等教育のための情報リテラシー基準2015年版



# 情報リテラシー

「高等教育の学びの場において必要と考えられる情報活用能力」、すなわち「課題を認識し、その解決のために必要な情報を探索し、入手し、得られた情報を分析・評価、整理・管理し、批判的に検討し、自らの知識を際構造化し、発信する力」

国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 「高等教育のための情報リテラシー基準2015年版, 2015.3



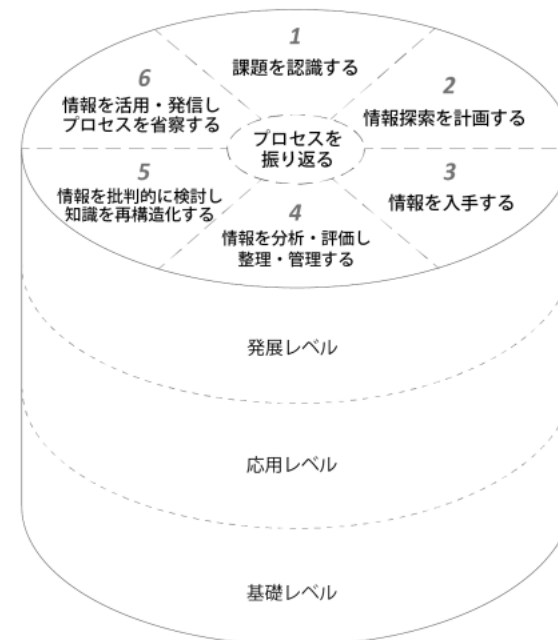
- 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会が2015年3月の作成

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

- 問題解決のための情報活用行動プロセスを6つの場面に分け、行動指標と具体的な行動を構成要素として提示

### 情報活用行動の6つの場面

- 1 課題を認識する
- 2 情報探索を計画する
- 3 情報を入力する
- 4 情報を分析・評価し, 整理・管理する
- 5 情報を批判的に検討し, 知識を再構造化する
- 6 情報を活用・発信し, プロセスを省察する



# 基準の活用効果

1. 課題をはっきりと理解できる
2. 調査や意思決定ができる
3. 必要なプロセスが抜けることがなくなる
4. 自分のやった作業を確認し、評価できる
5. 情報や情報源を評価できる
6. 課題に取り組む手順を考えられる



# 基準の活用方法

- 学士課程、修士課程で身につけるべき情報リテラシーを把握できる
- 情報リテラシーを評価する、ルーブリックの作成に利用する



つまり、体系的な情報リテラシー教育を企画・実施し、その成果を評価する手がかりとして利用できる

さらに、教員や他部署と連携する際のツールとなる



# 6つの場面と行動指標

## 行動指標

6つの場面において学習者が取るべき行動を指標として示したもの

### 1. 課題を認識する

行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める

### 2. 情報探索を計画する

行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる

### 3. 情報入手する

行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する





# 6つの場面と行動指標

## 4. 情報を分析・評価し、整理・管理する

行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する

## 5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する

行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する

## 6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

行動指標⑥ 社会倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する



# 場面 1. 課題を認識する(1/2)

行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める

(構成要素)

1.1 自分を取り組みべき課題を識別し、その本質を把握する

- 解決すべき問題は何か？
- 出された課題の意図は？

1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する

- 概念に関する知識？
- 歴史的事実？新聞記事？地理的情報？
- データ？



# 場面 1. 課題を認識する(2/2)

(構成要素)

1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める

- 何が分かっていて、何が分からないのか？
- あとどういう情報があれば良いのか？



# 場面 2. 情報探索を計画する(1/3)

行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる

(構成要素)

## 2.1 情報の生産と流通の過程を知る

- インターネットの情報と紙の情報はどのように生まれ流通しているのか？
- 学術情報はどのように生産され流通するのか？

## 2.2 情報の種類や特徴を把握する

- 情報源にはどういうものがあるのか？
- Wikipediaと図書、雑誌、新聞はどう違うのか？



# 場面 2. 情報探索を計画する(2/3)

(構成要素)

## 2.3 求める情報へのアクセス方法や入手を支援するサービスを選択する

- 必要な情報はどこにあるのか？
- どうすれば手に入るのか？
- 誰が手助けしてくれるのか？

## 2.4 情報を探索する際の合法性、社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する

- 違法なコピーではないか？
- 無駄な情報まで集めてはいないか？
- どれだけ時間をかけられるのか？



# 場面 2. 情報探索を計画する(3/3)

(構成要素)

## 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する

- 2.1から2.4を踏まえて、情報入手のための適切で効率的な計画を立てる
  - ・情報源をリストアップする
  - ・どの情報から入手するか
  - ・どこでどのように情報を入力するか
  - ・いつまでに情報を入力するか



# 場面 3. 情報入手する(1/2)

行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する

(構成要素)

3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する

- 図書館サービスを効果的に利用できているか？
- 分からないことがあれば教員や図書館員に相談したか？



# 場面 3. 情報入手する(2/2)

(構成要素)

## 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する

- 蔵書検索が適切にできているか？
- データベースをうまく使えているか？
- インターネットで必要な情報を検索できているか？

## 3.3 必要な情報の範囲に照らし合せて適切な情報を取捨選択する

- 検索結果から必要な情報だけを取り出せているか？





# 場面 4. 情報を分析・評価し、整理・管理する(1/2)

## 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する

### (構成要素)

#### 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性、真正性などの点から批判的に分析・評価する

- 情報源は信頼できるか？ 的外れではないか？ 間違っていないか？ 改竄されてはいないか？

#### 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する

- 必要な情報をノートに整理したり, 文献管理ツールを使って管理できるか？



# 場面 5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する

行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する

(構成要素)

## 5.1 情報を自らの知識と比較参照し、批判的に検討する

- Aという概念、考え方とBという概念、考え方のどちらに納得し、採用するのか？

## 5.2 新たな情報を自らの知識体系に組み込む

- 採用した概念、考え方を自分の考えとして説明できるようになっているか？



# 場面 6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する (1/3)

行動指標⑥ 社会倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する

(構成要素)

## 6.1 情報を利用する上で必要な法的・社会倫理的な知識をもつ

- 著作物を適切に利用できるように著作権法等を理解しているか？
- ネットワークを利用する上で必要な知識を持っているか？



# 場面 6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する (2/3)

(構成要素)

## 6.2 情報を発信するために必要なICT・コミュニケーションに関するスキルを持つ

- 文書作成や表計算、プレゼンテーションソフトは活用できるか？
- SNSやWebを活用できるか？

## 6.3 情報を発信する対象やコミュニティにふさわしい表現形式を選択する

- 誰に向かって情報を発信するのか？
- 受け手に相応しい手段、表現の方法を採用しているか？



# 場面 6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する (3/3)

(構成要素)

## 6.4 情報の典拠を明示し、適切に引用を行い、自分の主張を論理的に発信する

- 正しく引用しているか？
- 情報の典拠、参考文献等を正しく明示しているか？

## 6.5 最終的な成果物を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する

- 成果物は課題の求めているものになっているか？
- 情報活用行動全体を振り返り、うまくできたところ、次回に改善が必要なところはどこか？



# これが大切！

## 参考 活用体系表（例）

この体系表は、「高等教育のための情報リテラシー基準」を大学教育の場で活用するための、大学図書館を中心とした具体例として作成した。

主に、図書館職員や教員、その他関係する職員が授業や講習会の企画・目標設定・評価等を行う際の参考とすることや、学生がセルフチェックに活用することを想定している。

なお、本基準における基礎、応用、発展の3レベルは便宜的なものであり、大学ごとに設定することが適切である。

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	応用： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を言んだレポートの作成・発表ができる	発展： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる
1. 課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 (構成要素) 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要な情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。	□ 課題の意図を正しく理解できる。	□ 課題に沿ったテーマを設定できる。 □ 自分が設定したテーマについて他人に説明できる。	□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる。 □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。
2. 情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 (構成要素) 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。	□ 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 □ 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 □ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 □ 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。	□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 □ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 □ ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認することができる。 □ 各種施設（博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等）の特徴を説明できる。	□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 □ 信頼性の高い情報を選択できる。 □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる。
3. 情報を入力する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。 (構成要素) 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報を取捨選択する。	□ 所属機関の図書館の蔵書検索ツール（OPAC）を利用し、指定された資料を検索できる。 □ 図書館における資料の配置・分類法を説明できる。 □ 与えられた情報源を検索できる。 □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。	□ 課題に応じてメディア（図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源）を選択し、情報を収集できる。 □ 文献検索の検索語（同義語・上位語・下位語）を工夫できる。 □ ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。 □ データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。 □ 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。 □ 情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。	□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。 □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する。 (構成要素) 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性、真正性などの点から批判的に分析・評価する。 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する。	□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。	□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる。 □ 資料リストを作成し、管理できる。	□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。
5. 情報を批判的に検討し知識を再構築化する 行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構築化する。 (構成要素) 5.1 情報を自らの知識と比較参照し、批判的に検討する。 5.2 新たな情報を自らの知識体系に組み込む。	□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる。	□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる。	□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構築できる。 □ 再構築した知識をもとに、自らの知識を再構築し、自分の意見として説明できる。
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する。 行動指標⑥ 社会倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する。 (構成要素) 6.1 情報を利用する上で必要な法的・社会的な知識を持つ。 6.2 情報を発信するために必要なICT・コミュニケーションに関するスキルを持つ。 6.3 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい表現形式を選択する。 6.4 情報の典拠を明示し、適切に引用を行い、自分の主張を論理的に発信する。 6.5 最終的な成果物を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する。	□ レポートの一般的な体裁を説明できる。 □ 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。 □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる。 □ 引用と剽窃の違いを説明できる。 □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる。 □ 提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる。	□ 事実的・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる。 □ レポートや発表資料において図表・音声・画像を活用できる。 □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる。	□ 情報を意思決定・問題解決・実験・調査に活用できる。 □ 情報を活用するプロセスや明瞭性・正確性のモニタリングができる。 □ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる。 □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる。 □ 自分が発信した情報・論文を評価できる。



# 筑波大学附属図書館 学習・研究支援体系図2017

2018/5/1更新  
 ※「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」(2015年3月  
 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会)に準拠

学習支援：学習者の情報活用行動プロセスの各構面における達成要件と、その習得を支援する図書館のマスサポートプログラムをレベルにより分類・配置した。研究支援：教職員の情報活用の構面と、図書館のマスサポートプログラムの対応を表した。

学習支援							研究支援	
レベル	初級		中級		上級		大学院博士、教職員	
	与えられたテーマ・情報源をもとにレポート等を作成できる		与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を言及したレポート等を作成・発表できる		自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文等を作成・発表できる【卒論・修論レベル】		研究・教育・大学の行政管理に際し、学術的な情報を活用することができる	
主な対象	学群1,2年生		学群2,3,4年生		学群3,4年生、大学院修士		大学院博士、教職員	
情報活用行動プロセスの構面	達成要件	マスサポートプログラム	達成要件	マスサポートプログラム	達成要件	マスサポートプログラム	情報活用の場面	マスサポートプログラム
0 知見を拡大する		E1-W 図情図書館のバックヤード見学会				E3-WF 特別展講演会「江戸の遊び心」 E3-CF 講演会「マンガ×学びの最前線」		
1 課題を正しく認識し必要な情報の範囲を定める	□ 課題の意図を正しく理解できる		□ 課題に沿ったテーマを設定できる □ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる		□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる		利用可能な情報源、情報サービスを確認し、利用する	A-W 新任教員オリエンテーション
2 課題解決のために情報探索を計画する	□ 学術情報流通のプロセス、メディアの種類や特性を説明できる □ 文献入手に関わる図書館サービスを利用できる □ 著作権法など、情報を探索する際の道法性に留意できる	A1-E 図書館PV「LIFE with LIBRARY」 A1-E 選5図書館生活どうですか？The Movie A1-E 選七のお薦め利用術！ A1-E 図書館チュートリアル	□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる □ 信頼性の高い情報源を推測できる □ ひとつの事例に対し、複数の情報源を確認することができる		□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる □ 信頼性の高い情報を選択できる □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる		情報探索ツールを活用して、効率的な文献入手プロセスを実践する	
3 探索計画に基づき必要な情報を入手する	□ 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる □ 図書館の資料配置・分類法を説明できる □ 参考・引用文献リストを適切に取り取り、調査に活用できる	A1 新入生履修ガイダンス A1-C フレッシュマンセミナー A1-W 新入大学院生オリエンテーション A1-W 留学生オリエンテーション A1-W 図書館の使い方(初心者編)  B1-W 30分でわかる！文献検索から入手まで	□ 課題に応じた情報源を選択できる □ 文献検索の検索法(同義語・上位語等)や演算子(AND・OR・NOT)を工夫し、データベースを活用できる □ 情報の出所や信頼性を点検・確認し、必要な文献を選択できる	B2-C 基礎化学実験 化学情報検索 B2-W 日本語論文の探し方 B2-W 外国語論文の探し方(専門データベース活用法) B2-C 国語III B2-C 知の探検法	□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、見直すことができる □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる	D3-L ストレスフリーな卒論術-LAがおすすめ！卒論前に読みたい文献-	研究・学術情報のサイクリルを知り、研究業績の登録、探索を行う	D3-W 博士論文インターネット公表の基礎知識
4 収集した情報を批判的に分析・評価し整理・管理する	□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる	D1-WF 全国大学ヒブリアトール2017茨城地区予選会	□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる □ 資料リストを作成し、管理できる	D2-WF 専攻？意見！ 理系レポートの核・図表を攻略しよう D2-WF 専攻？意見！ レポートの作法、「事実」と「意見」を区別しよう	□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる	C3-WV 文献管理ツール RefWorks活用法	収集した情報や自書を客観的・批判的に分析・評価し、整理・管理する	C3-WV 文献管理ツール RefWorksの活用法
5 整理した情報を批判的に検討し知識を再構造化する	□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる	D1-WF 疑うことからはじめよう-批判的に読む- D1-WF 自分をオープンに伝えてみよう！本音で話して大丈夫な技術	□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる		□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる □ 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる		著作権・特許権を含む知的財産権の遵守、個人情報保護、盗用・提進、改ざんの防止など研究倫理にのっとった研究活動を行う	D2-W 著作権ワークショップ D2-WF 自分を守る情報リテラシー情報の山で迷わないために
6 情報を活用・発信しプロセスを振り返る	□ レポートの一般的な体裁を説明できる □ 引用と参照の違いを説明できる □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる □ 参考・引用文献リストを作成できる □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる	D1-Lラーニングアドバイザーが伝える！レポートの書き方 D1-WF 文書リテラシー小論文とレポートの違いはわかりますか？ D1-WF 文書リテラシー伝わるための環境づくり D1-WF 伝えるためのことばのカタチ	□ 事象的・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる □ 図表・音声・画像を活用できる □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる	D2-WF 自分を守る情報リテラシー情報の山で迷わないために D2-W 著作権ワークショップ	□ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる □ 自分が発信した情報・論文を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する	D3-WF 学振特別研究員応募支援セミナー(日英)	読者の立場に立った明確で堅固な主張と論理展開を持ち、適切な形式で発信する	D3-WF 学振特別研究員応募支援セミナー(日英)

# 事例紹介





富山大学附属図書館

『情報リテラシースキルの学び方：学士力・人間力基礎』

情報リテラシー教育テキスト

<http://hdl.handle.net/10110/00018380>

京都大学図書館機構

「大学図書館の活用と情報探索」

教員と連携した授業

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/support/12303>

広島大学図書館ライティングセンター

図書館に設置

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc>



# (5)「図書館員の図書館員のための」 information literacy librarian 育成事業

「図書館員による図書館員のための」  
INFORMATION LITERACY INSTRUCTION  
LIBRARIAN 育成事業  
INFORMATION LITERACY INSTRUCTION LIBRARIAN TRAINING PROJECT

Information Literacy Instruction 担当する図書館員を育成するILI-Lのホームページ

この育成事業は、金沢大学附属図書館、群馬大学附属図書館、名古屋大学附属図書館の3大学による「図書館員のためのILI-L」による育成事業の一環として実施されています。

【このe-learningコースは公益財団法人図書館協会協会の協賛により実施されています。】

サイトニュース

モーターによる研修を開始しました。  
2014年 02月 20日(火曜日) 14:30 - User Admin 投稿

毎年夏から冬にかけて開催していた、2月～3月にかけてもモーターに実施しているります。コア学習、コアコンテンツ、共有環境化の研修を行い、研修を行う予定です。

コース一覧

学習支援ライブラリアンコース(定額制)

東海七連立私立大学図書館協会と連携する学習支援ライブラリアンコースの募集が始まりました。当サイトで実際に開催された講習会等とビデオ撮影した記録です。【会員限定】

情報リテラシーリソースバンク

情報リテラシーリソースバンクを構築しています。

情報リテラシーリソースバンク

図書館員のための情報リテラシー、教育の提供、図書館利用促進のための情報リテラシー、教育へ広げていくために必要知識を学びます。

学習科学パート

情報リテラシー、教育を実施するためには、「学び」に関する科学である学習科学の基礎的な知識を学びます。

インストラクショナルデザインパート

情報リテラシーを効果的に伝えるためには必要となる、インストラクショナルデザインの体系的知識を学びます。

大学図書館研究センター  
teacher: 藤倉 幸子

Calendar

日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29
30	31				



## ◆ 4つのパート

- 情報リテラシー
- 学習科学
- インストラクショナル・デザイン
- 大学図書館が活きる効果的な広報

<http://el.nul.nagoya-u.ac.jp/instruction/>

- Information Literacy Instructionを担当する図書館職員を育成するe-ラーニングコース
- この育成事業は、金沢大学附属図書館、静岡大学附属図書館、名古屋大学附属図書館の三大学による「学習支援促進のための三大学連携事業の一環として実施
- 公益財団法人図書館振興財団の助成により構築



# 5. 学生との協働から生まれる学び



# (1)なぜ学生との協働が必要なのか？



# 学生協働はボランティアでもアルバイトでもない



**大学図書館において、学生同士あるいは学生と職員が共通の目的のため、協力して共に活動すること。**

期待される効果：

1. 大学図書館の運営・活動の活性化がはかられる
2. 学生の図書館利用が促進される
3. **学生の学習支援につながる**
4. 協働する学生自身、職員自身の成長がはかられる

学生協働ワークショップin東京実行委員会「学生協働ワークショップin東京2017」

<https://sites.google.com/view/gakuseikyodo-in-tokyo/>



学生アシスタント:

「自発的・自立的に学習支援に関与し、図書館スタッフの一員としての働きをする学生スタッフ」

ラーニング・コモンズにおける学生アシスタントの意義:

1. サービス再考・創出の機会
2. 学生ニーズの把握
3. 質問しやすい環境の実現
4. **学習の機会・実践の場の提供**

呑海沙織・溝上智恵子「大大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」『図書館界』vol.63, no.2, 2011





**学生でしか教えられないこと  
できるようになった人はできなかった自分を忘れてしま  
う。**

**教えることで学ぶ**



## ピア・サポート活動(日本ピア・サポート学会)

『子どもたちの対人関係能力や自己表現能力等社会に生きる力がきわめて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、教師の指導・援助のもとに、子どもたち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を、各学校の実態や課題に応じて設定し、そこで得た知識やスキル(技術)をもとに、仲間を思いやり、支える実践活動をピア・サポート活動と呼ぶ』

<http://www.peer-s.jp/outline.html>



## (2) 学生協働の事例



学生協働ワークショップin東京2017

学生協働ワークショップin東京 実行委員会

<https://sites.google.com/view/gakuseikyodo-in-tokyo-2017>

大学図書館学生協働交流シンポジウム

中国四国地区大学図書館協議会主催

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/sympo2017/index.html>

九州大学附属図書館 図書館TA (Cuter)

Cute. Guides (図書館TAによる学習ガイド)

<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/?b=t>



# 6. 学修・学習支援を実践するために



図書館員は  
変わらないといけないのか？  
—求められる能力・スキル—



- 「学び」についての理解
  - 学習科学
  - スキャフォールディング(梯子掛け)
- 情報リテラシー教育の実践
  - 企画立案
  - インストラクショナル・デザイン
- ファシリテーション
  - 場づくり
  - 見える化



# ファシリテーション

## 5つの基礎スキル

- 場づくり(空間の物理的デザイン、机・いすの並べ方)
- グループサイズ(グループの人数による成果の違い)
- 問い(課題の設定、考えるきっかけ)
- 見える化(言葉、考えを視覚化する)
- プログラムデザイン(時間の流れのデザイン)

『学び合う場のつくり方: 本当の学びのファシリテーション』中野民夫著, 岩波書店, 2017





# 空間の物理的デザイン

- 机と椅子の並べ方を変えるだけでも雰囲気が変わり、生まれるアイデアの質に影響する。
  - スクール型
  - 劇場型
  - 扇型
  - アイランド型
  - 長方形型
  - 多角形型
  - ひし形型
  - サークル型 など



# レファレンス 情報リテラシー

**図書館員としての専門性を高めることがまずは大切**



# 千葉大学アカデミックリンクセンター 教育・学修支援専門職養成プログラム

ALPS プログラムとは

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、日本の大学教育の高度化のために、教育・学修支援に高度な専門性を有し、「高度な実践力」と「体系化された関連知見」と「新しい教育の開発・企画力」を有する新たな教育・学修支援専門職の養成プログラムの構築と養成に取り組んでいます。



## 教育・学修支援の専門性に必要な能力項目(試案)

	学生・学修支援への関心	担当業務の遂行	大学職員としての共通性
理解する内容	<b>①学生・学修・教育支援の内容</b> ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学生支援の現状理解	<b>②担当業務の内容</b> ・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用	<b>③大学についての知識</b> ・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解
対人関係	<b>④学生への対応</b> ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応	<b>⑤担当業務への取り組み方</b> ・担当業務の遂行 ・チームワーク	<b>⑥人間関係の構築</b> ・人的ネットワーク ・教員との連携・協働
基盤的スキル			<b>基盤的スキル</b> ・キャリアアップ・スキルアップの取組 ・ICTスキル ・物事を広くみる ・語学 ・クリティカルシンキング ・説明できる力 ・文章作成能力 ・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー)

千葉大学アカデミック・リンク・センター, 「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック(試案)」  
<https://alc.chiba-u.jp/ALPS/rubric.html>



# 主体的・協働的な学習態度を醸成するために、 大学図書館は何ができるか？



1. 大学のディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに沿って考える
2. 図書館の持っている、使えるリソースは何か
3. 現状を評価する



段階的な目標・マイルストーンを設定



# 目的を明確に

- 多目的は無目的
- デザインする

**図書館は何をしたいのか？  
を明確にする**



他大学の事例 (Good Practice) を  
導入することも必要だが

**まずは、図書館に何ができるか、  
何をしたいかを教員に伝えるべき**





# 図書館と図書館員の 覚悟が試されている



**魚を一匹もらうと、一日は食べていける。  
魚釣りの方法を学ぶと、一生食べていける。**

**孔子**



ご清聴ありがとうございました。

少しでもご参考になれば幸いです。

